長野県教育研究集会
～いっしょに話しませんか　子ども、学校、教育を～

2022　長野県教育研究集会ニュース　第１号

2022/11/05（土）

オンライン（zoom）開催

記念講演

９：４５～１２：００
講師：藤原辰史さん
（京都大学人文科学研究所准教授）
講演：「ウクライナについて考えつづける」

分科会Ⅰ

１３：３０～１５：１０

分科会Ⅱ

１５：２０～１７：００

県教研 Web サイト
https://www.kenkyoken.com

発行　長野県教職員組合連絡協議会
事務局　長野県高等学校教職員組合
０２６－２３４－２２１６

2022年度長野県教育研究集会に寄せて

― 今こそ、「自主的研修」の維持発展を ―

2022年度長野県教育研究集会　集会委員長　清水　幸広

コロナ禍の下、2022年度の長野県教育研究集会が3年連続のオンライン開催の運びとなりました。県教連の企画推進委員の皆様、分科会役員の皆様をはじめ、関係者の皆様のご尽力に心より感謝申し上げます。

さて、2006年に政権の強い意向により導入され、さまざまな弊害をもたらした教員免許更新制がついに廃止されました。導入当初、この制度は現場で子どもたちの実態をもとに地道に教育実践を重ね、自主的な研修にとりくんできた私の尊厳を傷つけるものであると抗議の意思を表明して、免許更新を行わず、現場を去った先輩教員のことを思い出します。

その後12年を経て廃止はされましたが、「発展的解消」の名の下に、新たに教員の「研修の記録」と管理職による「研修の奨励」を義務づける制度が実施されようとしています。今、私たちは「研修」とは何かを問い直さなくてはいけません。

教員の研修は教育公務員特例法に規定される「権利」であり、何より自主性が尊重されなければなりません。管理職の「指導・助言」により、意に反して研修の強制が行われることになれば本来の趣旨に反します。

長野県教育研究集会は各地で地道にとりくまれた実践レポート等を持ち寄り、参加者による研究討議を通して実践を共有し、互いの実践力量を高める機会であり、まさに自主的教育研究活動そのものです。研修の強化により教員の管理統制が危惧される情勢を踏まえれば、県教研の意味はますます重要です。実践レポートをもとに旺盛に討議を行い、自主的な教研活動を継承発展させていこうではありませんか。

開催日程

２０２２年１１月５日（土）

全体集会・記念講演	9：45 ～ 12：00
分科会Ⅰ	13：30 ～ 15：10
分科会Ⅱ	15：20 ～ 17：00

＊分科会によっては２日目も開催されます

記念講演

講師　藤原　辰史さん（京都大学人文科学研究所准教授）
演題　「ウクライナについて考えつづける」

開催分科会

1 国語教育、2 外国語活動・外国語教育、3 社会科教育、4 算数・数学教育、5 理科教育、6 図工・美術教育、7 音楽教育、書写・書道教育、9 技術・職業教育、10 家庭科教育、11 保健体育教育、12 学校保健、13 総合学習・生活科、14 学校づくり・教育課程、15 生活指導（自立と自治の指導）、16 特別支援教育と障害児の教育、17 幼年期・低学年の教育と保育問題、18 青年期・定時制・通信制の教育、19 子ども・青年と進路、20 平和・人権と国際連帯の教育、21 教育条件整備、22 学校給食と食教育、23 環境・公害と教育、24 現代文化・図書館教育、25 不登校、26 高校改革・入試制度、27 ジェンダー平等の教育

＊ 14・26 分科会は合同開催です

- ■ レポーターでなくてもどなたでも参加できます。
- ■ 成功レポートだけでなく、失敗したこと、困っていること悩んでいることも交流しましょう。
- ■ 写真、動画、教材などをもとにした発表でも OK ！気軽な雰囲気で交流をしましょう。
- ■ 学年、教科会、仲間同士など、グループでの共同発表も大歓迎！

■ 2022 長野県教育研究集会ウェブサイト　https://www.kenkyoken.com

集会ウェブサイトには、集会の詳細や最新情報などを掲載していきます。ぜひご覧ください。参加申込みもこちらから。

分科会紹介

１．国語教育

ついに新学習指導要領が高校にも入ってきました。またタブレットの導入も進み、学校にＩＣＴ機器があるのが当たり前という生徒ばかりです。そんな中で困っていることやこんなことをやっているという実践を持ち寄ってみませんか？　学校を超えていろいろなことを話しましょう。ご参加お待ちしています。

2. 外国語教育

2021 年度県教研の外国語教育分科会では、様々な校種から外国語教育・外国語活動に携わる方が集まり、「新学習指導における知識・技能、思考力・判断力・表現力をテストする作問・測定・評価のあり方」、「GIGA スクール」などをテーマにレポート発表、討議を行いました。どのレポートも、生徒の意欲を引き出す工夫にあふれていました。外国語を教えることの難しさ、悩みを共有し、お互いにアドバイスをしあえたことも、温かい雰囲気の県教研ならではでした。今年度も、どのような立場の方の参加も歓迎します。ぜひ一緒に外国語教育・外国語活動について語りましょう。

３．社会科教育

発達段階は違っても、私たち社会科が目指すところは、主権者市民として次世代を担う児童・生徒が主体的に学び、これからの社会を造り上げていけるようにすることにあるのではないでしょうか。

新学習指導要領の全面実施から２年が経過し、高等学校でも実施が始まりました。そうした中、「観点別評価を進めるために、小中高での実態や取り組み、ICT 機器を活用した学習方法の工夫など」に関心がある先生も多いのではないでしょうか。本分科会では、明日からの指導・支援に繋がる会を目指し、次のようなことを話題として取り扱いたいと考えています。

・観点別評価の方法について、各校での取り組みについて
・高等学校における、新設科目についての実践
・ICT 機器を活用した授業実践
・小中高で一貫性のある指導を目指し、共有したい教科特有の課題や評価方法について

県教研は、小中高の先生方が一堂に介して議論できる貴重な機会です。レポートの発表はもちろん、聞くだけの参加も歓迎しています。気軽な気持ちでぜひご参加ください。

４．算数・数学教育

楽しい算数・数学教育を創ろう

◎「楽しい授業を創りたいと考えているすべての先生方へ」子どもたちの興味・関心を引き出して、子どもたち自身が追究する授業。多くの先生方が目指している授業とはこのようなものではないでしょうか。場面の工夫、素材の工夫、教え方の工夫を通して楽しく、わかりやすい授業を目指していたり、学習形態に工夫を凝らしていたりしていることと思います。基本的な内容を納得して理解する。これにまさる楽しい学習はありません。皆さんの実践を交流して、何か一つでも明日のヒントになるお土産を持ち帰れる分科会を目指しています。

◎「皆さんの実践を気軽に語り合い、よりよい授業のヒントをみんなで考えあいませんか」

・グループ学習を成立させる課題や疑問を持たせるにはどうすればよいか。
・基本的な事項を豊かに学ぶためのヒントと実践
・ICT の活用はどうやればいいの？

こんな疑問を交流しましょう。

５．理科教育

文科省 HP 動画中に小学生女児の「タブレットがないと全部自分の頭で考えないといけないんです…」という衝撃的な発言があります。引き続くコロナ禍、GIGA スクール構想等、矮小画一化、検証を欠く一方的教育施策が下ろされてきています。学習指導要領は理科教育に当たっても実物や身近な自然から遠ざかり、一方的な学習評価を提示しています。誰のための教育、何のための教育が問われます。児童生徒の実態からスタートし、実践、検証、交流を通し、彼らに育みたい理科教育の創造を共に目指したいと思います。

本分科会は、小中高大の関係者が一堂に介して理科教育を議論できる、貴重な研究研修の会です。レポート、自由闊達な討論を通し、参加者からは、学ぶ喜びを確認する励みの場という声があがります。コロナ禍にあり ICT 化や新たな「評価」に対峙する中、本年度も実践等を通し、児童生徒、教師の成長に寄与する理科教育を追求する分科会としましょう。多くの参加者をお持ちしています。

6. 図工・美術教育

図工・美術教育に携わっているみなさん、気軽に来て、おしゃべりしませんか？レポートなしでも、互いの実践を見合ったり、新しい実践を見つけたりするチャンスです。小・中・高校の実践が見られます。多くのみなさんの参加をお待ちしています。

７．音楽教育

音楽の授業、どうしていますか？新型コロナの感染防止対策のために、どの教科でもいろいろな制限がされている中で、一番影響を受けている教科はおそらく音楽でしょう。歌えない、吹けない、という状況の中で、教師も子どもたちも、みんなが苦しい思いをしています。音楽教育に携わっている皆さん、専科の方も学級担任の方も、日々の悩みを持ち寄りませんか？相談する相手もなく、困難を抱えている先生もあることでしょう。コロナ禍の中、小学校から高校まで、「どんな力」をつけるために、「いつ」「何を」「どのように」指導していけばよいのかを、参加者みんなで考えていきましょう。レポートはなくても参加できます。みんなで話す中からきっと解決の糸口や新しい光が見えてくることでしょう。新しい仲間もできます。気軽にご参加ください。

８．書写・書道教育

書写・書道の授業実践を持ち寄って、皆さんで語り合いませんか？初めて参加される先生も大歓迎です。小中学校では、限られた時数の中で硬筆・毛筆で楽しく書くことや、先生が自信をもって授業に臨むためにはどうしたらよいのか、悩みがつきません。また、高校の教員も１校１人、あるいは複数校兼務が実状です。研修の機会も少なく、情報交換もなかなかできません。でも、書写・書道に関わる多くの方が同じ思いで日々実践されているのではないでしょうか。県教研分科会では、そんな思いを気軽に語り合える場にしたいと考えています。オンライン実施のため、残念ながら実技講習はできませんが、参加された皆さんで日頃の悩みや思いを共有しましょう。多くの方のご参加をお待ちしています。

９．技術・職業教育

技術・職業教育が担う大きな役割を再確認し、こどもたちが「ものづくり」の楽しさや重要性を実感し、活き活きと取り組む授業実践を共有しましょう。〇小・中・高の継続した技術・職業教育〇プログラミング教育の必修化と小・中での実践例〇学校教育のＩＣＴ化の現状と課題〇地域に学び、こどもたちが活き活きと取り組んだ授業実践〇キャリア教育と職業教育〇「第２期高校再編」とこれからの専門学科・総合学科・総合技術高校のあり方〇学校づくりに結びついた技術・職業教育

学校の技術・家庭科（技術分野）、高等学校の農業・工業・商業教育のそれぞれの視点で交流し、技術・職業教育の活性化のために学び合いましょう。

多くの皆様の参加をお待ちしています。

１０．家庭科教育

「これ、家でもつくってみたい。」「今度は家の人にやってもらうんじゃなくて、自分でもやってみよう。」授業の後にそんな感想がきかれることを目指し、日々実践を重ねられている先生方が多いのではないでしょうか。

衣・食・住・家族関係・消費経済など多岐にわたる内容を、限られた時間数の中でどのように教え、児童・生徒にどのような力をつけていくのか？コロナ禍の中での実習は？ICT はどう活用したらいい？県教研の場で共に語り合い、学び合いたいと思います。多くの皆様の参加をお待ちしております。

１１．保健体育教育

コロナ禍で体育の授業や体育的行事がやりにくくなっていますが、皆さんの学校はではどんな工夫をされているでしょうか。教育課程を編成し直すことも必要になってきています。本分科会では、そのようすを交流し合いたいと思います。そして今、「体育は何を教える教科なのか？」が問われています。部活動指導をやりたいという気持ちをもって体育教師になり、一番大切な体育授業がその場しのぎになってはいないでしょうか？　できる運動種目・教材が限られてきている状況の中で、どの学年で何を学習させるのか、どんな力をつけるべきなのかを考えていきたいと思います。どうぞ、お気軽にご参加ください。

１２．学校保健

この２年間、新型コロナウイルス感染症で学校の教育活動は大変影響を受けました。子どもたちは、心身共に何らかの影響が出ているはずです。その中で、保健室は子どもたちをとりまく環境や問題を明瞭に見渡せていける場所なのではないでしょうか。

貧困や不安定な環境の中で育ったり、自分に自信が持てなかったり、居場所を求めてネットの世界に依存する子、いじめ、不登校、虐待など様々な背景の中、保健室に来室する子どもたちの訴えはさまざまです。

今、子どもたちが何を求めているのか、何が必要なのかを探り、それに応えようとして日々奮闘している養護教諭の姿が、どこの学校にもあります。

今、養護教諭に求められているもの。小中高で子どもの成長を考える。仲間の実践から共に考え、学びあい、日々の悩みを語り合いましょう。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

１３．総合学習・生活科

本分科会は、保護者・地域・子どもたちとの連携による開かれた教育実践・学校づくりを研究の中心に据えて発展してきました。近年、小中学校での生活科・総合的な学習の時間における、地域との関わりを扱う実践交流が多くを占めてきましたが、高等学校においても、授業に「探究的な学び」の手法を取り入れた教科横断的な学習がより大切にされてきていることから、小・中・高に限らず、様々な立場の方の実践交流を通して、長いスパンでの子どもの育ちを考え合うことができる機会になればと思います。

多くの皆様のご参加をお待ちしています。

１４・２６学校づくり・教育課程 / 高校改革・入試制度

長引くコロナウイルス感染症の影響で、子どもたちの日常生活や学校生活が大きく変わってきています。新学習指導要領がいよいよ高校でも始まりましたが、社会や学校・子どもたちの中に拡がる深刻な課題に、応えるものではけっしてありません。長野県でも新たな高校入試制度が決定し、高校改革が着々と進められています。こうしたもとで、全国の動向とともに交流や議論を深める機会となればと思います。これからの学校はどうあったらよいのか、どのような教育課程づくりが必要とされているのか、参加されるみなさんの学校の様子や地域の様子を語り合いながら交流しましょう。大勢の皆さんのご参加をお待ちしています。

１５．生活指導（自立と自治の指導）

新指導要領が実施され、学校の様子もまた変わってきているでしょうか。でも、よく聞かれるのは、何かが導入されるたびに大変になっていくという現場の声です。日々の教育実践に手応えを感じつつも、気の重くなることも多いです。学級が大変、保護者との関係がうまくいかない、子どもに関わらない仕事が多すぎる、……など。そして何より、成果がいつ、どんな形であらわれるか分からない教育の営みなのに、すぐに目に見える結果を求めるようなあり方が、教職員を苦しめています。縛りから抜け出して、子どもたちと語り合い、学び合いながら豊かな世界を築いていく。そんなことは夢物語になりつつあります。でも、苦しい時だからこそお互いの実践や思いを語り合い、明日からやってみようと思える力をたくわえていく…そんな分科会なればと思います。大勢の皆さんの参加をお待ちしています。

１６．特別支援教育と障害児の教育

特別支援教育が制度化されて１５年、コロナ禍の状況で現場はますます多くの課題を抱えています。
○感染防止のための出席停止措置や学級閉鎖等により、不登校児生が増加し、配慮を要する児童生徒へのよりきめ細かな対応の必要性が出てきていること○愛着の未形成や様々な家庭的な問題を抱えている児童生徒への通常学級における対応と学級づくり○早期からの療育支援のあり方、専門家との連携○特別支援学級・学校における自立活動や生活単元学習のあり方・特別支援教育コーディネーターの専任化○盲・ろう・養護学校における再編や設置基準の問題、「長野県特別支援教育整備基本方針」の問題点など、教育条件整備の課題○高校における「通級による指導」の条件整備と実践の課題○高校における転学・退学者の増加とその対応○小・中・高の連携のあり方、障害児学校の分教室や中学校の通級指導教室との連携のあり方○ＩＣＴ教材などの教育機器を活用した実践や、ギガスクールやリモート学習の問題点や実践の課題　等々

上記の課題を、現場よりあげられるレポート、共同研究者による基調提案などをもとに討議の柱を据えて論議していきたいと考えています。参加すると長野県の状況がよく分かり、明日からの実践の参考になる、とても有意義な分科会です。ぜひご参加ください。

１７．幼年期・低学年の教育と保育問題

集団生活の中で、個別の支援を必要とする子どもたちの姿が増えています。友だちとうまくかかわれない子どもたちの思いに寄り添い、その子に応じた支援をしていくためには、現場の様々な実践を交換し合い、その中から学び合うことが不可欠です。保育園・幼稚園の待機児童の問題は、子育て中の保護者の方だけでなく、教職員の働き方にも影響しています。また、放課後や長期休み中の子どもたちの居場所としての学童保育も様々な課題を抱えています。就学前や低学年期の子どもたちに関わるレポートを通して、実践を交流し合い、子どもたちの置かれている現状について語り合いましょう。そして、よりよい子どもたちの育ちについて情報を共有し、日々の指導・支援に生かしていきましょう。
＊この分科会の開催は 11/ 5 (土)13:30 ～ 15:10 です。

１８．青年期・定時制・通信制の教育

定時制・通信制高校ってどんなところ？定時制・通信制について興味はありませんか。分科会に参加して一緒に語りましょう。定時制・通信制を取り巻く課題についても参加者とともに語り合いたいと考えています。定通制の再編の課題、特別支援教育、日本語を母語としない生徒の課題なども扱います。少人数でアットホームな雰囲気で語り合いましょう。レポート持参でなくてもかまいません。気軽に顔を出してみませんか。定時制・通信制についてこんなことを知りたいという声も大歓迎。ご参加お待ちしています。

１９．子ども・青年と進路

分科会の今日的テーマとしては、社会情勢の中で育てたい学力と進路保障の実態と課題について以下８つについて研究を深めます。

1 小中高大等の連携を通した進路意識を高める指導
2 現在の学習指導要領と「学力テスト」のもつ問題点
3 現在の学習指導要領と「学びの基礎診断」「大学入学共通テスト」「外国語試験の民間試験導入」の問題点
4 児童・生徒・学生等の学力実態と進路指導
5 雇用環境と就職指導のあり方
6 進路問題とキャリア教育がかかえる問題点
7 家庭の貧困・格差社会の実態と問題点
8 コミュニティースクール・子ども食堂の取り組みと課題

２０．平和・人権と国際連帯の教育

「武器を持つものは、人としての理性を無くす。恐ろしい蛮行を繰り返し、己を正当化するためには人間の尊厳を失うことも憚らない。さらに強い武器を持つものが並び立てば、際限なく非人道兵器も増強する」2022 年 2 月ウクライナへのロシア軍事侵攻の映像を目の当たりにして感じたことです。現在、国連にて相容れない 2 つの条約 NPT(核不拡散条約) と TPNW(核兵器禁止条約) が発効されていますが、NPT による核抑止力では核戦争を防ぐことができないことが、核保有のプーチン大統領が核使用を公言した時点で明らかです。TPNW による全世界核廃絶こそが正しいあるべき姿だと確信したと同時に、平和憲法 9 条をもつ被爆国日本が NPTW に批准することが世界平和の一歩であると思います。「教え子をふたたび戦場へ送らない」という私たちの基本的な願いを現実にするために、人権を守り、世界中の人々がともに平和である社会の実現を目指すため、お互いの実践を持ち寄って、未来の主権者のために一緒に話し合いましょう。

２１．教育条件整備

ここ数年のコロナ禍において社会を取り巻く状況は大きく変わりました。しかし、地域には以前と変わらず子どもがおり、社会生活を育んでいます。今までこの分科会では、小学校から高校までの就学支援制度や学校予算等の話題を中心に学ぶことへの支援を考えてきました。刻々と変わり続ける子どもたちを取り巻く状況について、就学支援制度の観点から交流してみませんか。多くの皆さんのご参加お待ちしています。

２２．学校給食と食文化

新型コロナウイルスの流行によって学校へ登校できない状況下、また感染対策としての人の往来が減る中、学校の ICT 環境が整い、教育における ICT を活用した食育の取り組みを始めています。自校給食の施設だけでなく、多くの配送校を抱える大規模センターからも、ICT を活用することにより学校への新しい働きかけが可能になります。今年度分科会では、ICT を活用した食育の実践より学びあい、どのように実践を広げていくか悩み事などを語り合える場を計画しています。栄養教職員の方はもちろん、学級担任や保護者の皆様など様々な方のご参加をお待ちしています。

23. 環境・公害と教育

昨年は、オンラインでの開催で少人数での開催となってしましましたが、例年は、小学校から大学、市民、企業の報告、そして高校生自らの報告など、バラエティーに　富んだ、多方面から内容を含んだ報告が数多くある分科会です。元々高度経済成長期における地域の公害や環境問題を研究してきた分科会ですが、近年の異常気象やコロナよるパンデミック現象など現代に合わせた課題もあり、この分会で取り上げるべき話題も多くあります。今年も参加者のみなさんと語り合える分科会になるようしたいと思っています、レポーター以外の教員の、市民の方是非お気軽にご参加ください。お待ちしております。

２４．現代文化・図書館教育

学　校での生徒会活動、文化祭活動を中心に、児童・生徒・学生の文化的活動を研究しています。また図書館教育を通じてメディアリテラシーの実践・研究も行っています。県内の青少年を対象に友人との関係や、興味関心に関わること、スマートフォンを通じての交友関係および余暇の過ごし方など、長期に渡りアンケートを実施して集計した結果を元に当日の研究会で問題を共有して、学校の枠を超えて話し合いを行います。共同研究者にはネット上でのトラブルに詳しい専門家を招いて、実際に青少年が抱えた問題を討議したり、地元の大学生が地域の行事に参加している様子や、過疎の村に長期に渡り滞在してその生活を体験した報告を紹介してもらったりしています。県教研では現代における様々な「文化」および「図書館」に関わる活動について皆さんのレポート・ご参加をお待ちしています！

２５．不登校

みなさんの学校やクラスに、学校に行かれなかったり、教室に入れなかったりしている子はいませんか？保護者のみなさん、「学校に行きたくない」と言う我が子を目の前にして、どうしたらいいかわからず悩んでいませんか？それぞれの思いや悩みを語り合い、聴き合いながら、心の重荷を少しでも軽くできたらいいなあと思います。学校現場のとりくみを紹介し合い、どう「不登校」（いじめも）にとりくんでいったらいいのか話し合います。子どもに寄り添った実践が毎年報告されています。日頃の様々な悩みも交流し合い、学び合いましょう。また、不登校を経験された方のお話や、フリースクール・親の会・不登校支援団体等の実践等をお聞きしたりして、多角的に話し合います。地域の居場所・フリースクール・親の会や進学などについての情報交換も行う予定です。たくさんのみなさんのご参加をお待ちしています。

２７．ジェンダー平等の教育

ジェンダーとは、生物学的な性別に対し、社会的・文化的につくられる性別のことを指します。男女の社会的・文化的役割の違いや男女間の関係性を示します。

学校は一般に差別なく平等な教育がなされている場だと思われています。確かに子どもたちは性別に関わりなく同じカリキュラムを学び、同一の基準で評価されることになっているのが現状ですが、学校教育の場で日常的に見られる性別役割分担意識やジェンダーによる決め付けが垣間見えるのも事実です。今年度から常設となった本分科会は、教職員のみならず、保護者・一般の方もご参加いただけます。「～らしさ」に囚われるのはもう終わりにしませんか。ジェンダー平等について、教育現場における実践も交えて、幅広い視点から皆さんで学び合いましょう。多くの方のご参加をお待ちしています。

記念講演

ウクライナについて考えつづける

２０２２年２月に始まったロシアによるウクライナ侵略戦争は現在も続き、多くの人々が犠牲となり、子どもたちのいのちや人権がおびやかされています。
気候変動、食糧危機、コロナ禍、紛争 ― 私たちが直面している危機の多くは、「大量に作り、迅速に運び、即座に効く」という原則をもとに、農業も軍事も政治も教育も成り立っていることにある、と藤原さんは指摘しています。この、「迅速・速攻・決断」の原則でできあがった社会が、人間の感性を鈍麻させ、自然や人間との付き合い方を硬直化させてきた、と。こうした現代社会の傾向がもっともよく現れているのが、飽食と飢餓が同居する「食べること」だと述べています。
藤原さんは、２０世紀の食と農の歴史や思想の研究から、歴史学や文学、生態学など多様な領域を横断しながら、戦争、技術、飢餓、ナチズム、給食まで、一見バラバラに見えることが、実はすべてつながっていること、過去の歴史の背景を知り、現在にどう生かしていくのかを、さまざまなメディアで発信されています。「ウクライナ侵攻について」という、出版社から発表された往復書簡（数学者の井原康隆さんとの往復書簡/ミシマ社）では、一日本はすでに、現在も続いているウクライナ侵略戦争の当事者であり、この災厄を終わらせる国際世論を築くために、「わかりやすい図式」にとびつくのではなく、複雑な現象の複雑さに目を凝らし、心を落ち着かせて、「学ぶ」ことが重要ではないでしょうか― と述べられています。
藤原さんの講演会にぜひご参加いただき、子どもたちのいのちや人権を守り平和な世界を実現するために、教育ができることを、今一度考え合い語り合いましょう。

あ

書籍紹介

「ウクライナのこと」
生きることの歴史、生きのびるための道。黒土地帯、第二次ポーランド分割、コサック、・・・地理や世界史の教科書にも乗っている言葉に血を通わせる。
「ウクライナを知る」第１歩はここから。

「縁食論」
世界人口の９人に１人が飢餓で苦しむ地球、義務教育なのに給食無償化が進まない島国。
「新しい食のかたち」を歴史学者の立場から探り、描く。

「ナチスのキッチン」
ナチスによる支配体制下で、人間と食をめぐる関係には何が生じたのか？ 近代化の過程で変容する、家事労働、レシピ、エネルギーなどから、「台所」という空間のファシズムをつぶさに検証し、従来のナチス研究に新たな一歩を刻む。

「戦争と農業」
トラクターが戦車に、化学肥料が火薬に、毒ガスが農薬になった。テクノロジーは農業と戦争を通底する。その実態を明かしつつ、暗い未来に一灯を掲げる。

「分解の哲学」
私たちが生きる世界は新品と廃棄物、生産と消費、生と死のあわいにある豊かさに満ち溢れている。歴史学、文学、生態学から在野の実践知までを横断する、＜食＞を思考するための新しい哲学。

講師紹介

藤原 辰史（ふじはら・たつし）さん
1976年北海道生まれ。島根県育ち。京都大学人文科学研究所准教授。専門は歴史学、特に農業史、環境史。戦争、技術、飢餓、ナチズム、給食などについて、20世紀の食と農の歴史や思想について研究。主な著書に『ナチス・ドイツの有機農業』（第1回日本ドイツ学会奨励賞）、『ナチスのキッチン』（第1回河合隼雄学芸賞）、『食べること考えること』、『トラクターの世界史』、『戦争と農業』、『給食の歴史』（第10回辻静雄食文化賞）、『食べるとはどういうことか』、『分解の哲学』（第41回 サントリー学芸賞）、『縁食論』、『農の原理の史的研究』がある。
2019年2月には、第15回日本学術振興会賞受賞。

あ

教育が、
平和のために
できること。

2022/11/5
9:45~12:00

2022長野県教育研究集会

記念講演

講師：藤原 辰史さん（京都大学人文科学研究所准教授）

演題：ウクライナについて考えつづける

ー2022年2月に始まったロシアのウクライナ侵攻を、日本に住む私たちが
どのように考えていくべきか。極めて重要な問題であるにもかかわらず、
批判的な人間でさえすでに飽き始めている。
また同じ倦怠が繰り返され、私たちは暴力に加担する。
ここでは、今一度、ウクライナ侵攻の歴史的背景や、NATOの
これまでの問題点、たとえばユーゴスラヴィアの空爆などを念頭に起きつつ、
直接的・構造的暴力がどのように隠されてきたのか、
そして、「西側」のメディアに引きずられすぎることなく
世界を考える態度について、考えてみたい。ー（藤原辰史）

藤原 辰史（ふじはら・たつし）さん
1976年北海道生まれ。島根県育ち。京都大学人文科学研究所准教授。専門は歴史学、特に農業史、環境史。戦争、技術、飢餓、ナチズム、給食などについて、20世紀の食と農の歴史や思想について研究。主な著書に『ナチス・ドイツの有機農業』（第1回日本ドイツ学会奨励賞）、『ナチスのキッチン』（第1回河合隼雄学芸賞）、『食べること考えること 』、『トラクターの世界史』、『戦争と農業』、『給食の歴史』（第10回辻静雄食文化賞）、『食べるとはどういうことか』、『分解の哲学』（第41回 サントリー学芸賞）、『縁食論』、『農の原理の史的研究』がある。2019年2月には、第15回日本学術振興会賞受賞。

県教研ニュース１号 発行：長野県教職員組合連絡協議会

http://naganokokyoso.com 026－234－2216 長野県教育研究集会 事務局：長野県高等学校教職員組合